Museum News
博物館ニュース
徳島県立博物館
No.123
2021年6月18日発行

特集 「新常設展グランドオープン」

モノ語りに、体温を。

「徳島まるごかみ ー“いのち”と“とき”のモノ語りー」

遊山箱

8月上旬、新常設展グランドオープン！

新常設展には、遊山箱をイメージした棚型展示がロビーゾーンなど各所に設置され、遊山シアター、こどもゆさんなど、「遊山」の名が付くコーナーも新しく登場します。これらは、子どもたちが、節句の日に遊山箱（弁当箱）を持って野山に出かける風習をモチーフにし、遊山箱の形にちなんでデザインしたものです。

博物館で、徳島の自然と歴史・文化をめぐる「阿波遊山」を楽しんでもらいたいと思います。そして新たに発見したこと、興味をもったことを、あなただけの心の「遊山箱」にいっぱい詰め込んでください。

（磯本宏紀）

特集

考古資料のハンズオンキット

岡本治代

現在、博物館では、常設展示室のリニューアル工事を進めています。新常設展では、開館後30年間の資料収集や調査研究の成果を反映して、これまで以上に展示資料を充実させる予定です。また、レプリカやハンズオンキット（触ることができる資料）、復元画といった実物資料の情報を補う資料もあわせて製作しています。

考古分野の展示における補助資料の必要性

展示されている考古資料を見たとき、多くの方が知りたいのは、この資料を「どのように使用したのか」、「何のために使ったのか」、「どんな人が使ったのか」といったことではないでしょうか？しかし、実物資料のみでこの疑問に答えるのは簡単なことではありません。

考古学が対象とする資料は、遺跡でみつかる建物跡などの遺構や、土器，石器といった遺物です。こうした資料が、使用された当時の姿をとどめていることはほとんどありません。日本の気候は湿気が多く微生物が繁殖しやすいことに加えて、酸性土壌が広がっていることから、製品や骨などの有機物や金属の多くは、土中に埋まっている間に分解されて無くなってしまいます。さらに、土中で腐食しにくい土器や石器であっても、完全な形で遺っていることはまれで、欠損部の多い破片として出土します。

図１　旧常設展における石斧の展示風景

図２
復元製作中の石斧

そこで必要になってくるのが、道具の使用方法を体験できるハンズオンキットや、資料の欠損部を補ったレプリカ、遺跡の復元画といった補助資料です。ここでは、先史・古代の展示室で展示予定の、石斧と屋根瓦のハンズオンキットの製作についてお話しします。

石斧のハンズオンキット

旧常設展では、弥生時代の展示コーナーで、石斧を展示していました（図１）。こうした石斧は、本来は木製の柄に装着して使用されたものですが、これまでの展示では、そのような使用方法を紹介できていませんでした。そこで、新常設展では、弥生時代の石斧を再現したハンズオンキットを展示することにしました。復元にあたっては、石斧の復元実験を行っている徳島大学の中村 豊教授にアドバイスをもらい、吉野川支流の川田川の河原にある結晶片岩を材料にして、弥生時代と同じく石製の砥石で磨いて成形しました。また、柄の部分は、徳島県内の遺跡から出土している石斧の柄に使用されたものと同じカシ類の木を使用することとしました（図２）。

屋根瓦のハンズオンキット

飛鳥・奈良時代の展示コーナーでは、寺院で使用された屋根瓦のハンズオンキットを製作しています。旧常設展から引き続き展示する予定の瓦は、

図３　旧常設展における屋根瓦の展示風景

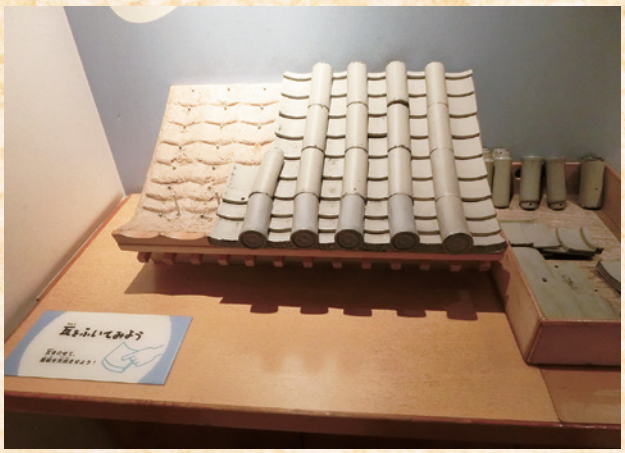

図４　屋根瓦ハンズオンキットのイメージ(兵庫県立考古博物館)
新常設展では、軒先の部分を復元する予定。

いずれも欠損部が多い資料です（図３）。そのため、もともとの形を伝えるためには、何らかの工夫が必要でした。また、瓦屋根は部位に応じて異なる種類の瓦を使い分けていますが、旧常設展では、展示されている瓦が屋根のどの部分に使用されたものなのか、といった情報もありませんでした。

そこで、新常設展では古代の瓦葺き建物の屋根構造の復元画とともに、瓦の葺き方を体感できるハンズオンキットを新たに展示することにしました（図４）。復元製作する瓦のモデルは、徳島市阿波国分寺跡で出土している軒丸瓦・軒平瓦と、その祖型である大阪市難波宮跡の屋根瓦です。阿波国分寺跡出土瓦を所蔵している徳島市立考古資料館の協力を得て瓦の図面を描き、そこからハンズオンキットの設計図を作りました（図５）。展示スペースが限られるため、屋根全体の構造を復元することはできませんが、軒丸瓦１点、軒平瓦２点を組み合わせて軒先の部分の瓦を製作する予定です。

新常設展では、これ以外にも木製農具や銅鐸のハンズオンキット、古墳の立体模型なども展示する予定です。こうした補助資料の力も借りながら、これまで以上に実物資料の魅力や価値が伝わる展示にしたいと考えています。

(考古担当)

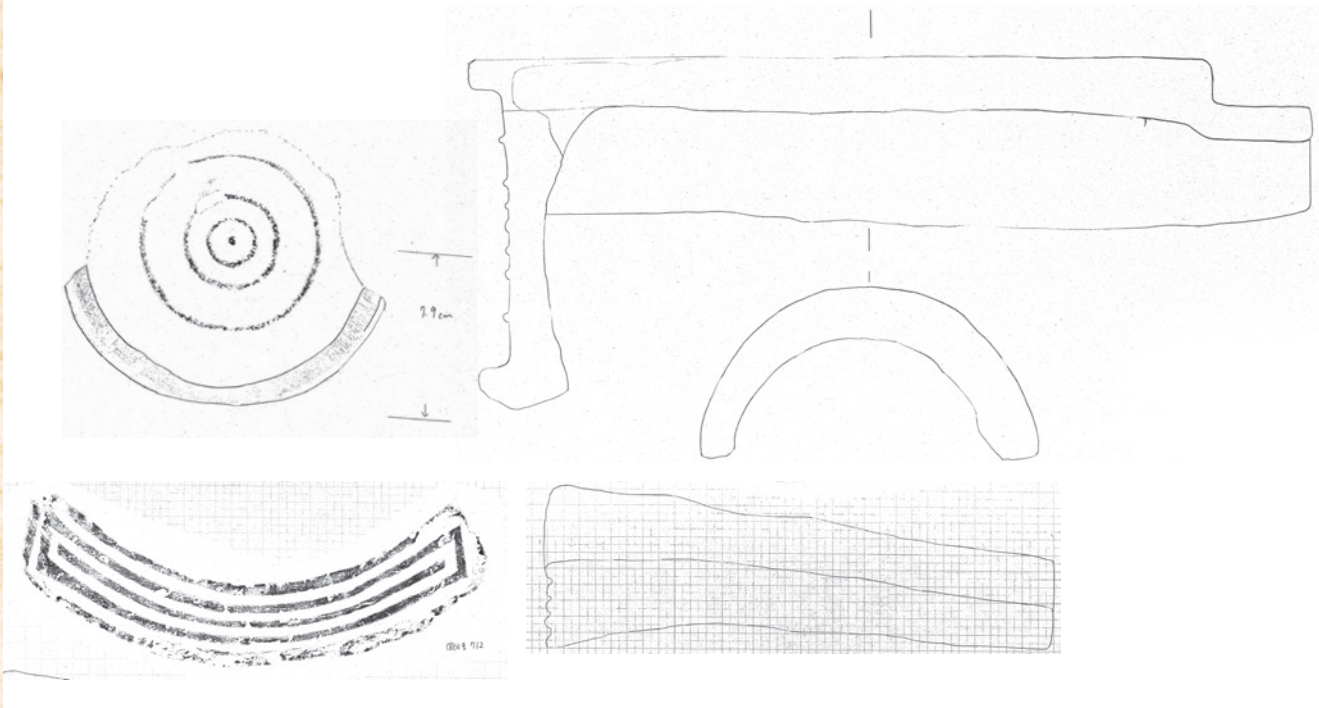

図５　屋根瓦ハンズオンキットの設計図
上段：軒丸瓦　下段：軒平瓦

特集

新常設展に向けた セトウチサンショウウオの収集

新常設展に来館する方々に、徳島の自然や歴史・文化をより深く知ってもらうため、新たな資料を追加する必要があります。今回はセトウチサンショウウオの収集について簡単に紹介します。

セトウチサンショウウオ（図１）は10cmほどの両生類で、里山にある田んぼの用水路のような環境で産卵し、普段はその周辺の森の石や落ち葉の下などで生活しています。しかし、近年では、用水路のコンクリート化や飼育目的の乱獲（らんかく）などの影響で激減しています。徳島でも生息地は年々消滅（しょうめつ）し、生息している場所を探すのは苦労しました。これまでの生息記録を調べたり、サンショウウオ類の調査をしている方に教えてもらったりして、どうにか生息地を見つけることができました。

生息地は、田んぼの横の水路で、セトウチサンショウウオの生息が確認できたのは数十メートルほどのごく限られた範囲のみでした。本種が確認できた水路では、卵や幼生も確認でき、せまい範囲ながらどうにか世代交代ができているようでした。

いざ捕まえるとなると、数が減っている貴重な生きものを捕ってしまってよいものかとの思いが頭をよぎります。しかし、県民の皆さんにセトウチサンショウウオという生きものが県内に生息していることを知ってもらえれば本種の保護につながるかもしれません。また、採集した個体を標本として残していくことで、今回採集した場所でセトウチサンショウウオが確実に生息していたという証拠にもなります。10年後にはこの場所からセトウチサンショウウオが消えているかもしれませんが、標本や記録がなければ生息していたという事実すら知られないままになってしまいます。このような思いから、１個体のみを採集しました。

この個体を基に作製された模型を新常設展で展示する予定です。新常設展で展示される資料の多くは、学芸員の手で、色々な思いを持って集められたものです。大きく目立つ資料はもちろんのこと、セトウチサンショウウオのように小さくあまり目立たない資料もじっくりと見ていただき、何かを感じたり考えたりしてもらえればうれしく思います。

（動物担当：井藤大樹）

図１　セトウチサンショウウオ

特集

徳島恐竜コレクション

イラスト：山本 匠

近年、徳島県勝浦町の白亜紀前期（約1億3000万年前）の地層から、恐竜の化石が続々と発見されています。また、恐竜化石の他にも、カメやワニなどの脊椎動物の化石も発掘現場から見つかっています。新常設展では、新しく「徳島恐竜コレクション」という展示コーナーを設け、発掘調査で発見された化石を一同に展示します。

勝浦町の発掘現場から発見された恐竜化石は、歯や骨の一部ということもあり、どのような種類の恐竜が、当時いたのかを想像しづらいと思います。そのため、新常設展では、徳島県の恐竜を分かりやすく伝えるため、生体復元模型や海外産の白亜紀前期の恐竜化石の全身骨格（複製）も展示します。

以下では、「徳島恐竜コレクション」で展示する資料のいくつかを紹介したいと思います。

徳島県の恐竜の生体復元模型

勝浦町からは、少なくとも３種類（鳥脚類イグアノドン類、竜脚類ティタノサウルス形類、獣脚類）の恐竜の歯の化石が発見されています（図１－３）。海外で見つかっている白亜紀前期の恐竜化石などを参考にして、プロの造形作家に生体復元模型を作製してもらいました。

図１　勝浦町産の鳥脚類イグアノドン類の歯化石と生体復元模型

図２　勝浦町産の竜脚類ティタノサウルス形類の歯化石と生体復元模型

図３　勝浦町産の獣脚類の歯化石と生体復元模型

マラウィサウルス（全身骨格）（複製）（図４）

白亜紀前期にアフリカに生息していた竜脚類ティタノサウルス形類の一種です。全長10mほどと、竜脚類としては、比較的小さな種類です。勝浦町で発見されている竜脚類も、マラウィサウルスと同じティタノサウルス形類に含まれます。

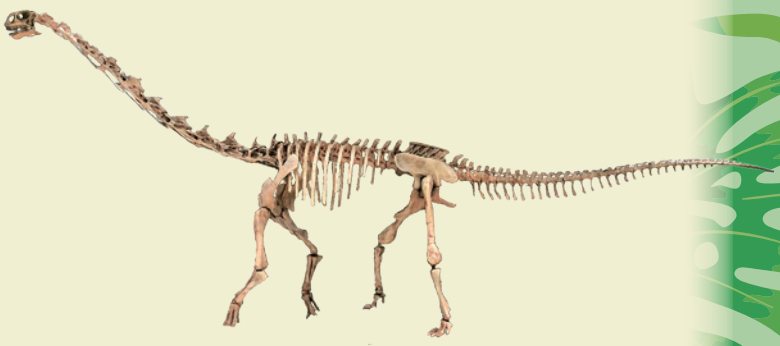

図４　マラウィサウルスの全身骨格（複製）

プロバクトロサウルス（全身骨格）（複製）（図５）

中国の内モンゴルから発見された白亜紀前期の植物食恐竜の一種です。歯の構造からイグアノドン類とその進化型であるハドロサウルス類の中間に位置すると考えられています。勝浦町から発見されたイグアノドン類の歯の持ち主もこのような姿をしていたと思われます。

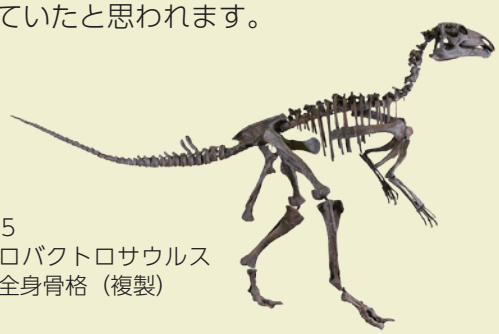

図５
プロバクトロサウルスの全身骨格（複製）

（地学担当：辻野泰之）

吉野川上流でのアユ釣り映像撮影

―VR体験ルームのコンテンツ制作の裏側―

新常設展では、これまでの展示よりも映像展示が増える予定です。映像展示が増えるということは、その分だけ映像コンテンツの制作が必要です。今回はその映像制作のうちの1つ、吉野川上流でのアユ釣り撮影の「裏側」を少しだけ紹介したいと思います。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、思うように計画を進められずにいたのですが、2020年８月以降、吉野川上流漁業協同組合の協力を得て、ようやくアユ釣りの映像制作を進めることになりました。アユ釣りシーズンが終わる直前、初秋からの始動でしたので、撮影とシナリオ作成を急ピッチで進めることになりました。自然相手の撮影ということもあり、天候、川の水量、アユの動きなど様々な条件がクリアされ、なおかつ幸運に恵まれなければなりません。状況を探りつつ計画を進めたのですが、ロケハンを経て、10月上旬にようやく撮影にこぎ着けることができました。

当日は、２つの釣り方を撮影することができました。友掛け（友釣り）（アユのなわばりを持つ習性を利用し、おとりアユを泳がせ、追い出そうと近づいてきたアユを針に掛けて釣る方法）で2名、コロガシ（川底の藻類を食べに集まるアユを針で掛けて釣る方法）で１名、それぞれの釣りで地元の方に出演してもらいました。後日、漁協の組合長など２名にインタビューの収録にも協力してもらいました。

図１　撮影準備
釣れたアユを釣り人目線で撮影するため、胸に小型カメラをつけさせてもらっています。このときの映像は残念ながら使えませんでした(T_T)

図２　川の中の撮影場所を決める
川の中にカメラスタンドを立て、アユを釣る場所と撮影できそうな位置を調整中。釣り人は、友掛けで釣れそうなポイントを探してくれています。

図３　スタッフが映らないよう撮影
360°撮影なので、映りこまないようスタッフは岩陰に身を潜めて撮影しています。

ところで、このアユ釣りの映像コンテンツは、新常設展内のVR体験ルームに設置されるドーム型ディスプレイで公開されるものです。釣り人の視角を疑似体験してもらうこと、くらしの中にある川を視覚と聴覚で体感してもらうことを目的としています。そのため、360°カメラでの撮影、ウェアラブルカメラ（体に装着する小型カメラ）での撮影などにも挑戦してみました。また、映像展示をゲーム感覚で楽しめる工夫も進めています。

博物館新常設展にお越しの際には、実物資料の展示のほか、VR体験ルームにもご期待ください。

（民俗担当：磯本宏紀）

新発見のスイギュウ化石が展示されます

スイギュウという動物をご存じでしょうか？もともとインドやタイ、ネパールなどに分布するウシ科の大型哺乳動物で、大きな三日月形の角を持っています。沼地や河川など湿地やその周辺に生息し、アジア各地で農耕などに使われています。日本ではあまり見かける機会がありませんが、沖縄県ではおもに観光用に飼育されています（図１）。

2013年に鳴門の漁師さんから寄贈された化石のひとつがスイギュウ化石（右上腕骨の遠位部（右ひじの上））であることが、最近になって明らかになりました（図２）。鳴門海峡ではスイギュウ化石は初めての報告となります。哺乳動物化石の専門家である近藤洋一博士（野尻湖ナウマンゾウ博物館館長）と私との共同研究で、当館の研究報告に論文が掲載されました。

図１　観光用に飼育されているスイギュウ（沖縄本島）
提供：茨木靖学芸員

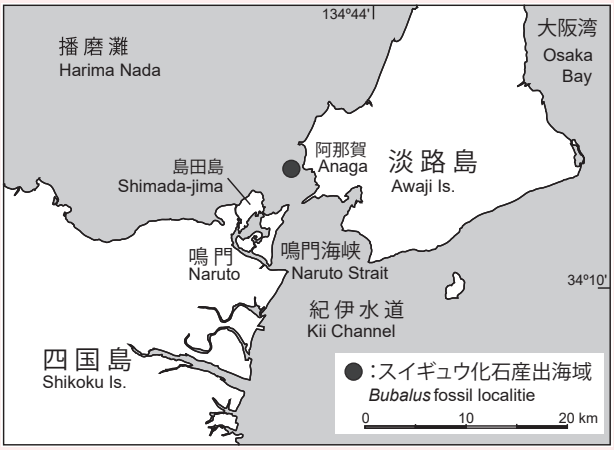

図３　化石の発見場所

発見された場所は、淡路島の阿那賀沖で、以前からナウマンゾウやトウキョウホタテなどの化石が数多く見つかっている海域です（図３）。

同じ瀬戸内海の備讃瀬戸では、すでにスイギュウ化石が報告されています。国内では、ウシ科の化石としてはスイギュウのほか、バイソンなどの産出報告がありますが、その数は少なく、あまり研究が進んでいません。その意味でもたいへん貴重な化石といえます。この化石は、新常設展で展示する予定です。

文献：近藤洋一・中尾賢一．2021．鳴門海峡からスイギュウ化石の発見．徳島県立博物館研究報告，(31)：1-6.

（地学担当：中尾賢一）

図２　スイギュウ化石（１点）をいろいろな角度から撮影

7月から9月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
野外生きものかんさつⅠ<動物>	漂着物を探そう！★	8月 1日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(15)	徳島市内
野外生きものかんさつⅡ<植物>	花巡り！植物かんさつハイキング7月 －山開き自然の中へ－	7月 4日(日)	10:30～17:00	要	小学生から一般(15)	弁当・水筒持参 徳島市中津峰
	初めての植物かんさつ(夏編)★	7月17日(土)	13:30～15:30	要	小学生から一般(15)	同日開催「ゼロから始める植物学」
	花巡り！植物かんさつハイキング9月 －秋の七草探してみませんか？－	9月26日(日)	10:30～17:00	要	小学生から一般(15)	弁当・水筒持参 神山町焼山寺
生きものしらべ隊	昆虫標本を作ろう①採集・作製★	7月11日(日)	10:00～15:00	要	小学生から一般(10)	①～③セット 申込みは7/1(木)まで ①・②は雨天中止
	昆虫標本を作ろう②採集・作製★	7月18日(日)	10:00～15:00			
	昆虫標本を作ろう③仕上げ★	7月25日(日)	13:00～16:00			
	魚類の頭骨標本をつくろう★	8月 1日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(10)	
みどりを楽しもう・味わおう	夏休みの自由研究に！植物の繊維を取ろう★	8月29日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
	とっても簡単！草木染めにチャレンジ★	9月26日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
たのしい地学体験教室	アンモナイト標本をつくろう★	9月25日(土)	13:30～15:00	要	小学生から一般(15)	材料費300円 (高校生以下は不要)
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①～⑥	9月18日(土)	13:30～15:00	要	一般(20)	①～⑥セット 申込みは9/8(水)まで
		10月16日(土)				
		11月20日(土)				
		12月18日(土)				
		1月15日(土)				
		2月19日(土)				
ワクワクむかし体験	先取り自由研究、昔の道具しらべ★	7月 4日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	ゼロから始める植物学－標本の作り方編－★	7月17日(土)	10:30～12:00	要	小学生から一般(20)	同日開催「初めての植物かんさつ」
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	阿南市出身画家日下八光と装飾古墳	7月11日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(20)	会場：阿波海南文化村 当日13:00より受付。先着順。
	刀剣鑑賞の基礎知識	8月22日(日)				
	徳島県の恐竜化石発掘調査	9月 5日(日)				
博物館スペシャル	とくしま藍の日スペシャル－藍のはっぱで遊ぼう－★	7月24日(土)	13:30～14:30	要	小学生から一般(15)	
	標本の名前を調べる会★	8月21日(土)	10:00～16:00	不要	小学生から一般	☆参照

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。　◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。　◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。
☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物（昆虫・貝など）・岩石・化石などの標本の名前を調べる行事です。希望者は採集標本（1人30点以内）を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
◎行事日の1か月前から10日前までに必着でお申し込みください。
◎返信用はがきには、住所・氏名を記入してください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数や申し込み方法を変更する場合がございます。詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご覧いただくか、友の会事務局に電話でご確認ください。
※お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197）

往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	63 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの郵便番号住所氏名	1.参加希望の行事名 2.参加希望者全員名（学年・年齢） 3.住所 4.電話番号

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源（もの・情報・人）を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足
- 館内授業（博物館で）
- 出前授業（学校で）
- 博物館資料の貸し出し
- 教材研究のお手伝い

火おこし
（出前授業・館内授業）

- 学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。

動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。

※お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話088-668-3636）

特典がいっぱい！！徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について理解を深めながら、楽しく学んでいます。
個人でも、ご家族でもご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか

■年会費　・個人会員2,000円　・家族会員3,000円
（10月以降にご入会される場合、会費はそれぞれ半額となります。）

■会員の特典

- 友の会行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
- 催し物案内や博物館ニュース、会報などが毎月お手元に届きます。

◆2021年度の行事予定（友の会会員対象の行事です。）

8月28日(土)	夜の文化の森たんけん（ブラックライトで光るものさがし）（文化の森総合公園）
9月頃	ビーチコーミング（徳島市内）
10月22日(木)	お祭りを見にいこう！（吉野川市山川町川田八幡神社）
11月頃	拓本をとろう（徳島県立博物館）
12月頃	徳島城跡周辺歩き（徳島市内）
12月頃	銅鐸をつくろう（低融合金で鋳造体験）（徳島県立博物館）
（計画中）	新常設展　展示解説（徳島県立博物館）

※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
詳しくは、友の会事務局まで（電話088-668-3636）

現在の常設展示室は、リニューアル工事のため、閉室しています。新しい常設展示室のグランドオープンは、令和3年8月上旬の予定です。

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話 088-668-3636　FAX 088-668-7197）

■発行年月日 2021年6月18日
■編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
https://museum.bunmori.tokushima.jp